

鈴木 寛 (兵庫教育大学教授)

人間のコンピュータ化 = 絶対音感 (4)

夜空を見上げて満天の星を見るとき二通りの見方があります。一つは知りうる限りの星の名前と特徴が言える見方で、「あれが北極星」とか「あれが木星」というような見方です。もう一つの見方は星の名前は分からなくてもいくつかの星を線でつないだ【星座】という観点で星を見る方法です。

この場合、無数にある星の中から特定の位置にある星に注目する能力と、その星と特定の位置関係にある別の星を架空の線で結んで「あれが白鳥座」とか「あれが北斗七星」などと見る空間的イメージの能力が必要なわけです。

絶対音感と相対音感の関係はまるで星と星座の関係のようです。

夜空を見上げて太古の人も星とそれらの位置関係を観察してきました。「占星術」から「天文学」が生まれ、無限の彼方の幻想が「七夕伝説」や「かぐや姫」を生んだのです。

絶対音感で音楽を楽しむ方法は「その星の位置と特性」のデザイン的な面白さを楽しむのに似ています。もし夜空の星が碁盤の目のように規則正しく並んでいたら全然面白くありませんね。ランダムで個性的な星の配置は確かに新鮮で面白く楽しめるものでしょう。

それに対して相対音感で音楽を楽しむ方法は「星と星を関係づけてイメージを創る」という楽しみ方になります。一つの星からイメージを拡げて星どうしの位置関係を構造的に捉え全体のイメージにせまるという楽しみ方で、個々の星の問題ではなくグループとしての星座を楽しむわけです。その場合音階や機能と声等のスキーマを利用してグルーピングしますが、時代や国によってこのスキーマは変わりますし、音楽的経験が豊かになるほどこのスキーマもフレキシブルなものになります。

方向音痴と言われる人たちはタバコ屋や交番を知っていますがタバコ屋と交番の位置関係や方角が分からないのです。この傾向には「性差」があることが知られています。

よく小学校や中学校で新学期の最初に「家庭環境調査簿」等の名前の調査簿を配ります。それには通常住所や家族構成などを記入すると共に万一の事故に備えて緊急連絡先や自宅から学校までの地図を書きます。

問題はこの地図なのです。90%近い家庭でこの地図を男性(父親や息子)が描いていることが知られています。女性が地図を描くとポイントごとの建物や特徴は正確なのですが「方向と距離」が正しく描けないことが多いのです。時には自宅か学校が用紙からはみ出してしまいます。

逆に男性が描くと方向と距離は正しく用紙には収まるのですが目印となるポイントは貧弱で象徴的なものになることが知られています。

ですからある学者は「女性の記憶は具体的であり、男性の記憶は抽象化されていることが多い」ともいいます。

絶対音感とは具体的で直接的(感覚的)な記憶です。それに対して相対音感とは抽象的で間接的(論理的)な記憶です。女性に絶対音感者が多いのもあながちピアノなどのお稽古ごとをする人が多いからだけではなくこのDNA(遺伝子情報)の違いであるという見方が最近では主流です。即興的な演奏や移調はかなり極端な比率で男性の方が優位です。特に「移調」は私の教える大学でもピアノ経験が豊かであっても女子学生の苦手部門となっています。

ピアノ学習の大衆化と絶対音感者の増加には密接な関係があり、さらに絶対音感者の増加が「非調性的音楽」の増加を支えてきたとも言えます。

ニューラル・ネットワークの完成される五才までにこの直接的音感(絶対音感)を書き込んでしまうと、後に書き込まれる相対音感の形成が阻害されるようです。

早期教育がはやりの昨今、時代に逆行するかも知れませんが「音楽遊びは五才までに開始すること、但し音楽教育は五才以降」と法律でも決めてくれませんか。そうでもないといつに「ゼロ才児では遅すぎる」となり、「胎児に音楽教育を」どころか「精子に聴かせる音楽」なんてCDが出回りかねません。

本稿のタイトル「人間のコンピュータ化 = 絶対音感」では絶対音感信仰を正面から打破するとともに人間はコンピュータじゃないし、コンピュータのようになりたいとも思っていないことを警鐘の意味を込めて述べてきました。三才児が最初にピアノのお稽古をする場面を想像して下さい。昨日までは全部使える白黒鍵盤だったのに、突然白い鍵盤だけを使うように制限され、しかもそれに「ドレミ」なる名前があることを教えられます。三才児の集中力は七分前後が限界と言われているのに、いやいや何十分もピアノのお稽古をさされ、意に反して絶対音感を身につけさせられ、調性的な楽しみ方を奪われてしまいます。早期教育は大人の学習を少しでも早くからすることではないのです。発達段階に応じて必要な学習内容を必要に応じて教えることを早期教育と言うのです。

結論的には優れた絶対音感保持者は同時に優れた相対音感保持者でもあります。そして、絶対音感は非人間的音感であります。